

4. 火災の実態

1. 火災の概要

平成17年中の火災は、出火件数 2,824 件、損害額 9,338,705 千円、死者数 109 人、建物焼損床面積 62,677 m²、建物焼損表面積 6,004 m²、林野焼損面積 1,179a、焼損棟数 2,048 棟、り災世帯数 1,315 世帯、り災人員 3,411 人となった。

(火災の状況)

区 分	平成 17 年 ①	平成 16 年 ②	対前年増減数 ③ = ① - ②	増減率
				③ — × 100 (%) ②
出火件数	2,824	2,935	△111	△3.8
建物火災	1,490	1,436	54	3.8
林野火災	107	131	△24	△18.3
車両火災	301	302	△1	△0.3
船舶火災	5	4	1	25.0
航空機火災	0	0	0	0
その他火災	921	1,062	△141	△13.3
焼損棟数	2,048	1,933	115	5.9
り災世帯数	1,315	1,339	△24	△1.8
り災人員	3,411	3,487	△76	△2.2
焼損面積				
建物床面積 (m ²)	62,677	60,193	2,484	4.1
建物表面積 (m ²)	6,004	4,138	1,866	45.1
林野 (a)	1,179	3,679	△2,500	△68.0
損害額 (千円)	9,338,705	6,049,009	3,289,696	54.4
死者 (人)	109	87	22	25.3
負傷者 (人)	445	375	70	18.7

※ H7.1.1 から建物焼損面積について、建物焼損床面積、建物焼損表面積に区分した。

また、平成17年中の火災の発生を一日当たりで見ると、出火件数 7.7 件、損害額 25,585 千円、死者数 0.30 人、建物焼損床面積 171.7 m²、建物焼損表面積 16.4 m²、林野焼損面積 3.2 a、焼損棟数 5.6 棟、り災世帯数 3.6 世帯、り災人員 9.3 人である。

2. 出火件数

総出火件数は、2,824 件で前年と比べて 111 件減少している。これを火災種別で見ると次のとおりである。

種別	建物	車両	林野	船舶	航空機	その他
17 年 (2,824 件)	1,490 件 (52.8%)	301 件 (10.6%)	107 件 (3.8%)	5 件 (0.2%)	0 件 (0.0%)	921 件 (32.6%)
16 年 (2,935 件)	1,436 件 (48.9%)	302 件 (10.3%)	131 件 (4.5%)	4 件 (0.1%)	0 件 (0.0%)	1,062 件 (36.2%)

- (注) ア 建物火災とは、建物又はその収容物が焼損した火災をいう。
 イ 林野火災とは、森林、原野又は牧野が焼損した火災をいう。
 ウ 車両火災とは、原動機によって運行することができる車両及び被けん引車又はこれらの積載物が焼損した火災をいう。
 エ 船舶火災とは、船舶又はその積載物が焼損した火災をいう。
 オ 航空機火災とは、航空機又はその積載物が焼損した火災をいう。
 カ その他の火災とは、アからオまでに掲げる火災以外の火災をいう。

(1) 月別出火件数

出火件数を月別にみると、12月が406件と最も多く、3月338件、2月291件と続いている。

(2) 出火率

出火率（人口1万人当たりの出火件数）をみると県平均4.7件となっている。

3. 損害額

火災による損害額は9,338,705千円で前年比3,289,696千円（54.4%）増加した。また、県民1人当たりでみると1,553円（前年1,008円）、1日当たりでは25,585千円（前年16,572千円）、1件当たりでは3,307千円（前年2,061千円）となった。

4. 出火原因

出火件数を出火原因別にみると、次のとおりである。これは例年と同様の傾向である。

た き 火	放火・放火の疑い	た ば こ	こ ん ろ	火 遊 び	そ の 他
216件 (7.6%)	600件 (21.2%)	272件 (9.6%)	280件 (9.9%)	109件 (3.9%)	1,347件 (47.7%)

5. 死傷者の実態

(1) 死傷者数

火災による死者は109人、負傷者は445人で前年に比べて死者は22人（25.3%）、負傷者は70人（18.7%）の増となった。

(2) 火災種別にみる死傷者数

火災種別でみると建物火災が死者79人、負傷者386人でそれぞれ全体の72.5%、86.7%と大部分を占め、林野火災が死者1人、負傷者7人（0.9%、1.6%）、車両火災が死者13人、負傷者15人（11.9%、3.4%）その他の火災が死者16人、負傷者37人（14.7%、8.3%）となっている。

(3) 月別の死者数

死者を月別にみると2月が20人と最も多く、次いで1月、5月、11月が15人となっている。

(4) 年齢別の死者数

死者を年齢別にみると次のとおりであり、61歳以上が全体の4割以上を占めている。

区分	0歳～20歳	21歳～30歳	31歳～40歳	41歳～50歳	51歳～60歳	61歳～70歳	71歳以上	不明
件数	3	9	10	15	21	15	34	2
割合	2.7%	8.2%	9.2%	13.8%	19.3%	13.8%	31.2%	1.8%

(5) 死因

死者を死因別にみると自殺34人（31.2%）、一酸化炭素中毒・窒息34人（31.2%）、火傷によるもの31人（28.4%）、その他・不明10人（9.2%）となっている。

6. 火災種別ごとの出火件数及び損害額等

火災種別ごとの出火件数及び損害額は次のとおりである。

火災種別	件数	損害額千円	焼損面積	焼損棟数	り災世帯数	り災人員
建 物	1,490 (3.8%)	8,944,014 (54.8%)	床面積 62,677 m ² (4.1%) 表面積 6,004 m ² (45.1%)	2,048 (5.9%)	1,315 (△1.8 %)	3,411 (△2.2 %)
林 野	107 (△18.3%)	5,129 (△51.5%)	1,179 a (△68.0%)	—	—	—
車 両	301 (△0.3%)	191,297 (39.5%)	—	—	—	—
船 舶	5 (25.0%)	7,609 (1677.8%)	—	—	—	—
航空機	—	—	—	—	—	—
その他	921 (△13.3%)	121,437 (17.7%)	—	—	—	—
(爆発)	8	69,219 (234.4%)	—	—	—	—

() 内は対前年比

- ※ H7.1.1 から火災の定義に爆発現象が加わった。爆発の件数は出火件数の内数。損害額は外数。
H7.1.1 から建物の焼損面積について、建物焼損床面積、建物焼損表面積に区分した。